

第4回

緊急地震速報展・講演会

— 緊急地震速報の一般提供を迎えて —

のご案内

日時 2007年8月3日(金) 10:00~17:00

場所 東京国際フォーラム B7ホール

後援(予定) 内閣府、文部科学省、消防庁、気象庁、(財)震災予防協会、(財)地震予知総合研究振興会、(社)日本地震学会、(社)土木学会、(社)日本建築学会、(社)地盤工学会、(NPO)防災情報機構、日本地震工学会、日本災害情報学会、地域安全学会(順不同)

協賛企業 展示参加機関約30社

(独)防災科学技術研究所は、文部科学省の委託を受け、気象庁、リアルタイム地震情報利用協議会(REIC)、日本気象協会と共同で、緊急地震速報を実用化させるための研究プロジェクトを推進しております。その成果も踏まえ、気象庁は昨年8月1日より特定利用者に向けた緊急地震速報の先行的な提供を開始しております。現在、広く一般への提供に向けた準備を進めており、まもなく提供が開始される予定です。一方、多くの企業等は緊急地震速報を数百万の利用者に瞬時に伝達するためのシステムや緊急地震速報を利用した防災システムなど、緊急地震速報の一般提供開始に向けたシステムの開発を実施しております。

本展示・講演会では、地震災害の軽減に資するべく、これまでの成果を紹介・展示しますので、防災に関係される方々のもとより、広く一般の方々のご来場、討議へのご参加を期待しております。

講演会

時 間	10:00~16:40
場 所	東京国際フォーラム B7ホール
講 演 者	プログラムに詳細を記載
定 員	600名(ホームページより申込 先着順)
講演予稿集代	2,000円(資料代として)

展示会

時 間	10:00~17:00
場 所	東京国際フォーラム B7ホール
協 賛	協賛企業約30社
入 場 料	無料



東京国際フォーラム
〒100-0005
東京都千代田区丸の内3丁目5番1号
TEL: 03-5221-9000

JR線
有楽町線より徒歩1分
東京駅より徒歩5分
(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡)

地下鉄
●有楽町線 有楽町駅とB1F地下コンコースにて連絡
●日比谷線 銀座駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩5分
●千代田線 二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分
●丸の内線 銀座駅より徒歩5分
●銀座線 銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分
●三田線 日比谷駅より徒歩5分

首都高速道路
霞ヶ関出口から晴海通り
神田橋出口から日比谷通り
宝町出口から鍛冶橋通り
京橋出口から鍛冶橋通り

講演会プログラム

日時:2007年8月3日(金) 10:00~16:40

[司会] 大保 直人 NPO法人リアルタイム地震情報利用協議会 副会長

- 1 10:00~10:10** ■開会挨拶
岡田 義光 独立行政法人 防災科学技術研究所 理事長
- 2 10:10~10:30** ■来賓挨拶
高市 早苗 内閣府特命担当大臣(科学技術政策、イノベーション)
- 3 10:30~10:50** ■一般講演 「我が国における地震防災対策と緊急地震速報の本格運用に向けての取組み」
池内 幸司 内閣府 参事官(地震・火山対策担当)
- 4 10:50~11:10** ■一般講演 「緊急地震速報の一般提供に向けた気象庁の取組み」
上垣内 修 気象庁地震火山部管理課 地震情報企画官
- 5 11:10~11:30** ■主催者報告 「リーディングプロジェクト『高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト』総括報告」
堀内 茂木 独立行政法人 防災科学技術研究所 研究参事
- 6 11:30~11:50** ■主催者報告 「リーディングプロジェクトにおけるREICの活動報告」
藤縄 幸雄 NPO法人リアルタイム地震情報利用協議会 専務理事
- 7 11:50~12:10** ■主催者報告 「リアルタイム地震情報高度化に向けた今後の取組み」
青井 真 独立行政法人 防災科学技術研究所 主任研究員
- 12:10~13:30** 昼休み
- 8 13:30~14:10** ■基調講演 「緊急地震速報の一般提供を迎えて」
目黒 公郎 国立大学法人東京大学生産技術研究所 教授
- 9 14:10~14:30** ■一般講演 「緊急地震速報の一般提供に向け消防庁の対応について」
平口 愛一郎 総務省消防庁 国民保護室長
- 14:30~14:50** 休憩
- 10 14:50~16:30** ■パネルディスカッション
パネリスト 渡邊 淳 文部科学省地震・防災研究課 防災科学技術推進室長
上垣内 修 気象庁地震火山部管理課 地震情報企画官
遠藤 昌男 東京ケーブルネットワーク(株) 事業開発プロジェクトリーダー
堀内 義仁 国立病院機構災害医療センター 災害対応システム研究室長
源栄 正人 国立大学法人東北大学大学院 教授
早山 徹 NPO法人リアルタイム地震情報利用協議会 副会長
コーディネータ 目黒 公郎 国立大学法人東京大学生産技術研究所 教授
- 11 16:30~16:40** ■閉会挨拶
未定 文部科学省

※講演および時間は一部変更になる場合もございます

展示会

時間 10:00~17:00

場所 国際フォーラム B7ホール

協賛企業・機関 (50音順)

気象庁

<http://www.jma.go.jp>
10月1日に一般への提供開始が予定されている緊急地震速報について、映像資料及びパネルでその特徴や利用の心得などを紹介します。

カテナ株式会社

<http://www.catena.co.jp>
カテナは、地震データの配信、IP-VPN回線の提供、受信ソフト・機器の提供、システムの構築までトータルでお客様の緊急地震速報ソリューションを提案いたします。

ネクストキャディックス株式会社

<http://www.nextcadix.co.jp>
【CATV特化型緊急地震速報システム CATV-CatFish】
現行のケーブルテレビ (CATV) 設備とその地域メディア特性を有効に活用し、緊急地震速報の効率的かつ高精度な情報伝達の確立と端末価格の低コスト化を実現した新しい発想の緊急地震速報システムです。

アイホン株式会社

<http://www.aiphone.co.jp>
アイホンが提供するDASHWISMは、緊急地震速報をはじめとした最新のセキュリティ機能を満載し、マンションのセキュリティ性能をさらに高める設備として好評をいただいています。

株式会社サンコシャ

<http://www.sankosha.co.jp>
緊急地震速報受信システムの特徴
①衛星経由で全国へ瞬時に配信 ②パラボラアンテナ不要で降雨減衰の影響を受けません ③屋内はもとより、屋外・移動体 (車・船舶等) に活用

パシフィックコンサルタンツ株式会社

<http://www.pacific.co.jp>
デジタルラジオ放送を活用した緊急地震速報についてご紹介します。様々な防災情報を住民の方々へ輻輳無く確実に情報提供する方法としても期待されている新メディアです。

イメージシティ株式会社

<http://www.imagecity.jp>
阪神・淡路大震災で生まれた緊急連絡・安否確認システム『エマーゼンシーコール』。
現在では沢山のユーザー様からの要望が反映され、お客様と共に成長したシステムとなりました。

株式会社シーファイブ

<http://www.ccccc5.com>
緊急地震速報に加え、内蔵地震計による直下型地震にも対応可能なマンション専用地震防災システム。業界最多の導入実績を持ち、安心という付加価値をマンションにご提供。

株式会社パトライト

<http://www.patlite.co.jp>
震度と揺れまでの時間を光と音と文字でお知らせする「緊急地震速報表示端末 FTE」型の他、回転灯や音声合成、LED文字表示機で広く地震速報を伝える仕組みを展示します。

株式会社インフォテック

<http://www.e-infotec.jp>
私共は、受信ソフトを作成するだけでなく、配信用のサーバーも自社で開発し、暗号化された、圧縮した情報を端末まで送ります。同時配信性・冗長性・上位ログ記録が特徴です。

中央システム技研株式会社

<http://www.csr.co.jp>

日本キャストシステム株式会社

<http://www.kyastem.co.jp>

ロックリッジサウンドジャパン株式会社

<http://www.rockridgesound.co.jp>

「コミュニティ-FM局緊急地震配信システム」は、FM放送局から起動信号、地震アナウンスを送信し待機電力の少ない専用ラジオを自動起動するトータルシステムです。

富士通エフ・アイ・ピー株式会社

<http://jp.fujitsu.com/group/fip>
AlertStationEQは、気象庁から配信される緊急地震速報データを受信し利用者が設定した評価点及び代表都市に、地震到達前に震源情報・震度・P波、S波の到達状況を画面上に表示します。

株式会社エイツー

<http://www.a-2.co.jp>
生活振動ノイズ除去が可能な地震計内蔵緊急地震速報端末 (HomeSeismo) と地震観測網を利用した次世代緊急地震速報サービスの説明。
来年中にREICと共同でサービス開始予定。

松下電工株式会社

<http://www.mew.co.jp>
「緊急地震速報」対応マンション用インターホン設備
マンション内の地震インターフェースが緊急地震速報を受信すると、インターホン設備と連動し、住戸等で地震発生を通知します。

エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社

<http://www.ntinf.co.jp>
水深数千mの外洋における地震・津波の早期キャッチを目指した、光ファイバセンシング技術による海底地震・津波観測システムの開発状況について紹介いたします。

株式会社テックス

<http://www.tecs.ne.jp/>
複合機用緊急地震速報受信アプリケーション
キャノン複合機ImageRUNNERで緊急地震速報を受信し、事務用パソコン等で警報出力します。ごく一般的なオフィスで使用している機器で緊急地震速報を受信します。

明星電気株式会社

<http://www.meisei.co.jp>
緊急地震速報の発信から活用まで地震防災のトータルソリューションを提供します。
早期警報型震度計連動による設備制御、企業や公共施設での導入事例をご紹介します。

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

<http://www.ntt.com>
法人向け「緊急地震速報配信サービス」と対応受信端末を紹介致します。

東洋オートメーション株式会社

<http://homepage3.nifty.com/tac>
当社の地震感知器「ビブライン」はエレベーター、LPガス、プラント等に30年以上使用されています。特に今回、駆動用動力のいらぬ操作部を開発し、受信機とシステム化。

ライトハウス・システム株式会社

<http://www.lth.jp>
阪神大震災の経験を活かし、「人命・情報・物」をトータルで守る大規模向け「AEGIS」、中堅中小規模向け「EAGLE」をご提供しています。最適なシステムを安価にお届けします。

株式会社沖環境テクノロジー

<http://www.oki-kankyou.jp>
沖電気グループでは、半導体工場向けに高精度で直下型地震に対応できる地震防災システムJBS-01とその基本機能を集約した一般産業向けシステムJBS-02を展示します。

株式会社ドリームウェア

<http://www.dreamware.jp/digital-catfish/index.html>
IPv4/IPv6それぞれに対応した一般普及型および集合住宅向け緊急地震速報専用受信機「キャットフィッシュシリーズ」の製品デモをご紹介します。

独立行政法人防災科学技術研究所

<http://www.bosai.go.jp>
防災科学技術研究所は、気象庁等と共同で地震発生直後に即時的に震源位置やマグニチュード等を推定する技術開発を行っています。ここでは、その技術と今後の高度化についてご紹介します。

独立行政法人 海洋研究開発機構

<http://www.jamstec.go.jp>
東南海地震震源域にリアルタイム海底観測ネットワークを構築して、来るべき東南海、南海地震に備える地震津波研究プロジェクトを紹介いたします。

日本電気株式会社

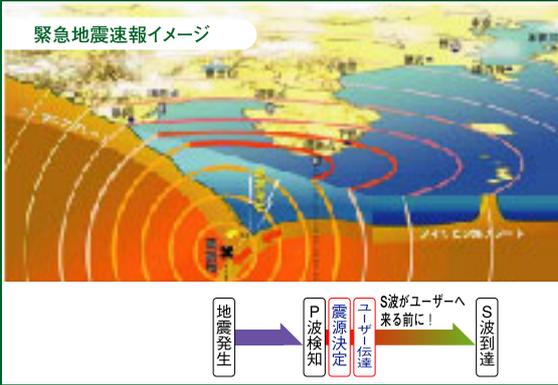
<http://www.nec.co.jp>
3つの特徴を備えた緊急地震速報表示ソフトウエア『震前大使』をご紹介します。①128箇所の震度/到達時間計算と配信 ②他システム連携プログラム提供 ③複数の配信元に対応

NPO法人リアルタイム地震情報利用協議会

<http://www.real-time.jp>
緊急地震速報の受信ソフト「まえぶれくん」による実演デモ、サイン音・ピクトグラムの展示、及び緊急地震速報の即活用に関する分野別の研究・開発と活用システム例の紹介。

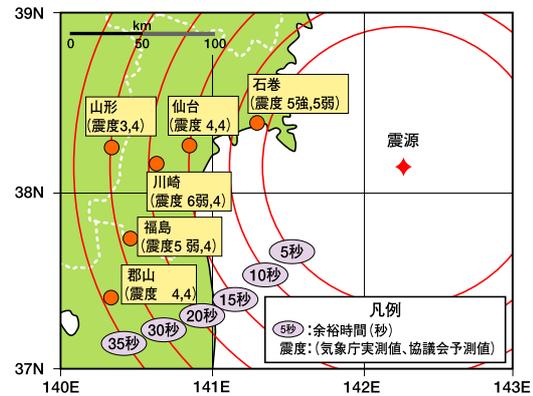
緊急地震速報のしくみ

緊急地震速報イメージ



全国に設置した地震計でP波（速度5～6km/秒）検知し即時に震源位置と地震の規模を推定します。P波とS波（速度3～4km/秒）の時間差を利用し、主要動が到達する数秒前から数十秒前に地震が来ることをお知らせ（※）できる画期的なシステムです。
 （※）震源から近い場所では緊急地震速報が間に合わない場合もあります。

緊急地震速報発表からS波到達までの猶予時間の例 （2005年宮城沖地震）



（気象庁発表値）
 2005年8月16日11:46:25.7
 38°8.9' N 142°16.6' E
 深さ42km M:7.2 宮城県沖
仙台では…
 約14秒前に震度4（予測値）の地震が来ることを知ることができた！

緊急地震速報の情報伝達の流れ



緊急地震速報の特長と限界

緊急地震速報の特長

全国に展開された防災科研と気象庁の地震観測網のデータを即時処理して得る情報なので、大きく揺れ出す前に情報を発信できる可能性が高くなります。

緊急地震速報の限界

- 震源に近いところでは情報提供が主要動到達に間に合わない場合があります。
- 事故、落雷、機器障害等によって誤報が発表される場合があります。
- 即時処理による予測情報なので、発表値には誤差が含まれています。



独立行政法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1
 Tel.029-851-1611 Fax.029-851-1622
<http://www.bosai.go.jp/>

研究内容

災害から人命を守り、災害の教訓を活かして発展を続ける災害に強い社会の実現を目指し、地震、火山、気象、土砂および雪氷災害による被害の軽減に関する研究開発を行っております。

NPO法人 リアルタイム地震情報利用協議会

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-14-4ミツヤ四谷ビル5階
 Tel.03-5366-2720 Fax.03-5366-2740 <http://www.real-time.jp/>

活動内容

リアルタイム地震情報を有効活用して、関連行政機関や企業、公共施設、地方自治体との協体制づくり、システムやデータの標準化、その他様々な調査や研究を通して、より安心で安全な国民の生活を築いていくことを目指しています。

活動内容

1. リアルタイム防災情報に関する調査・研究
2. リアルタイム防災情報の啓発と情報普及
3. リアルタイム防災情報に関する標準化の検討
4. リアルタイム防災情報に関する内外関連機関との連絡調整
5. リアルタイム防災情報の提供に関する研究

参加申込 連絡先

NPO法人 リアルタイム地震情報利用協議会
 ホームページよりお申し込みください。

<http://www.real-time.jp/>

お問い合わせ先 NPO法人 リアルタイム地震情報利用協議会 担当 水井 E-mail: reic_info@real-time.jp